

柴田山形大名誉教授 天文教育普及賞

星空への情熱 輝く

日本天文学会の本年度の各賞が決まり、本紙で「星案内」を連載する山形大名誉教授の柴田晋平さん(66)の写真が、天文教育普及賞に選ばれた。



が、天文教育普及賞に選ばれた。

星空や宇宙の楽しみ方をガイドする「星案内人(星のソムリエ)」資格認定制度の創設や、循環的な人材育成によって天文学の普及に貢献したことが評価された。また、山形市のアマチュア天文家・板垣公一さん(70)も写真賞を受賞した。



写真賞は20年連続で天体発見賞

を受けた。

☆☆

兵庫県出身の柴田さんは同大教授として中性子星の理論研究や学生教育に携わる一方、2003年に同制度を立ち上げた。現在は全国45カ所での星案内人養成講座が開かれ、5千人以上が認定

20年連続で受賞 / 「案内人」制度創設

を受けている。同学会は天文教育普及賞の授与理由について「ソムリエが後進のソムリエを育てるという人材育成の好循環が生まれている。自主的な活動を基盤とした制度ならではの」などとしている。

柴田さんは「私個人ではなく、星案内人に関わる皆さんに与えられた賞だと思う」と周囲への感謝を口にしている。

「今後は『町内に一人、星のソムリエ』を目標に、日常生活に天文学や自然科学が浸透するよう、さらなる普及に努めたい」と意欲を見せている。

天体発見賞は、新しい天体を発見した人に毎年贈られる。板垣さんは昨年1年間で11個の超新星を発見した。年間発見数としては4番目の多さ。

板垣さんは「見つけた星がたまに研究者の役に立つことがあり、励みになる。でも実は探すという行為そのものが楽しい」と話した。

(柴崎愛)

アマ天文家・板垣さん 天体発見賞